PART 13

～ビーチで水着撮影①～

週末

須藤：また指示を守らなかったな。
栞　：すみません、でも、他の人が突然来たので……
須藤：一緒に見てもらえば良かっただろ？
　　来週号でヌードを全国の皆様に公開でいいな？
栞　：そ、そんな……お願いです、他のことならしますから！
須藤：それじゃあ今度の日曜日、海で水着撮影させてもらうぞ。
栞　：……分かりました……（水着なら下着よりいいわよね）


《指定の場所へ向かうと、二十人ほどの男性がいる》
「あの、今日はただの撮影ということですよね？」
「ああ。ただ、君のファンとの交流会も兼ねてるんだ」
「え、大勢の人の前で水着になるなんて…」
「グラビア撮影なのに何言ってんだw。指示に従わないんなら、撮影済みの特別グラビアを公開するよ」
（素っ裸の奴だけどなw）
「そんな！　それだけは…」
「それじゃ、みなさんにご挨拶」
「……初めまして。涼川栞です。今日はよろしくお願いします」「よろしくー」「可愛い！」
「それじゃあ挨拶代わりに、スカートめくって見せろ」
「え、そんな…」
「指示した水着を下に着てるんだろ？」
「そうですけど」
「栞ちゃんの水着楽しみ」「何色かなあ」（ストリップの始まり～w）（生中継もされてるしw）
©ILLUSION


《おずおずとスカートをめくる琛》
「おい、セリフを教えてやれ」
【スタッフ】「はい」（琛に近づき耳元に囁く）
「…今日の琛の水着はピンクです。よく見てください」
「よし、そのままでいろよ」カシャカシャ
（みんなの視線が集中してる…恥ずかしい）
「かわいいよ」「恥ずかしがる表情もいいねえ」
「太ももムチムチ」（早く素っ裸を生で見たいｗ）
（ＶＩＰ会員になって良かった）
「よし。次はブレザーとブラウスの前を開いてトップを見せるんだ」
「え、そんな……分かりました」
©ILLUSION


《二十人の男の前で胸を開いてビキニを見せる栞》
「…今日の栞の水着はピンクです。よく見てください」
「よし、そのままでいろよ」カシャカシャ
「可愛いビキニ」「こっち見てー」「笑って」
「ファンの皆様のお願いにもきちんと応えろよ」
「は、はい…」《曖昧に笑う》
（みんなの視線が胸に集中してる…恥ずかしい）
「それじゃあそろそろ水着になってもらおうか」
「あの、更衣室は？」
「何言ってんだ。ここで脱ぐんだよ」《小さく睨む》
「え、それはちょっと……分かりました」
「後ろを向いて、スカートから脱ぐんだ。視線はみんなに向けるんだぞ」
「…はい…」（こんなのおかしい、絶対）
©ILLUSION


《ギャラリーに尻を向けてスカートを脱ぐ栞》
「脱ぎながらこっちに顔を向けるんだ。笑顔でな」
「はい……」（もういや、こんなの）
「おお、お尻が震えてる！」「おっきなお尻！」
「ちょっとエロいなｗ」
「よし、そこでストップ！」カシャカシャ
《片足を上げた状態で10秒静止させられ、ぷるぷる足が震え、突き出したお尻を振り立てる栞》
「もう、いいですか」（なんかすごく恥ずかしい！）
（ケツ振りショーたまらん）（もう脱がしたいｗ）
（栞ちゃんのお尻、動画では死ぬほど見たけどなｗ）
「まあいいだろう……早く上も脱ぐんだな」
©ILLUSION


《ビキニ姿になってもじもじする栞》
「あの、ちょっとこの水着、大胆ですよね…」
「何言ってんだ、普通だろ。ほら、観客のみなさんにご挨拶」
「はい、セリフはこれで」《カンペを見せるスタッフ》
「はい……栞の初ビキニ、いかがですか？」
「かわいいよ！」「清純で最高」「もっとよく見せて」
「手を後ろで組んでー、制服の時と同じポーズで」
「…こう、ですか？」（嫌らしい目で見ないでよ）
「ちょっとぎこちないな」カシャカシャ
「次は適当にポーズとってみて」
「ほら、こんな感じで」
「はい」（もう、早く終わって）
©ILLUSION


《ビキニで次々とポーズを取らされる栞》
「よし、いいぞ。人前にも慣れてきたな」
「はい、少し恥ずかしいですけど」
「栞ちゃん、可愛いよ」「少し照れた顔が初々しいね」
「肌が白いねー」「スタイルもいいよね」（早く生乳見たいなw）（生ケツもw）
《数分間そのまま撮影》
「次はなんかセクシーなポーズをして」
「セクシーって？」（スタジオでしたポーズは無理よ）
「海でやる定番みたいのあるだろ…教えてやれ」
「ほら、こんなポーズとか」
「はい…」（いやだけど、そのくらいなら…）
©ILLUSION


《スタッフに魅せられた胸を強調するポーズの栞》
「あの、これでいいですか…」
「なんだ、その顔は？　いやいやってるみたいじゃないか？」
「すみません…」（やだ、みんながエッチな目で胸と惜お尻を見てる）
《ギャラリーの視線が突き刺さり、笑顔がうまく作れない栞》
「これじゃあいつまで経っても終わらないぞ」
「すみません…」
「仕方ねえな、次のポーズ教えてやって」
「これなら前やったわよね」
©ILLUSION


《浜辺に半分横たわり腕を上げるポーズ》
「これでどうですか」
「スタジオの時よりぎこちないなー」
《一般客が集まってくる》
「あれ、なんかの撮影？」
「かわいいな」
「素人っぽくない？」
「撮ってもいいのかな？」
（やだ、どんどん集まってくる）
「ここじゃ撮影にならないな」
「場所変えますか？」
「ああ、あと水着もな」
©ILLUSION


《衣装を変え、場所も移動。ぞろぞろついてくるギャラリーは映らないようにカメラマンの後ろへ》
「この衣装はちょっと…紐なんて」
「グラビアで紐ビキニは当たり前だろ？」
「そうそう」「似合ってるよー」「こっち見て」
「ほら、両腕を上げて、手は頭の後ろ！」
「は、はい……」（ああ、みんなが見てる…）
《角度を変えながらしばらく撮影》
「それじゃあ次、ケツを見せるポーズ！」
「そ、そんな」（ケツなんて言い方、ひどい）
「はい、このポーズ！」
「はい」（早く終わらせるためよ）
©ILLUSION

《膝立ちになり後ろを振り向くポーズ》
「お、いいじゃないか…もっと笑って」パシャパシャ
「はい…」（お尻に視線を感じる…）
「お、このポーズ…」「自室でケツ丸出しと同じかｗ」
「くうたまらん！」「透視できてしまうｗ」「生で見ると最高」
「ほら、お客さんに向けてお尻振って」
「そ、そんなことできません！」

「しかたねえなあ…じゃあ今度は立ちポーズで」
「はい、このポーズ」
「はい」（これならできそう）

©ILLUSION

《立ち上がって振り向きながらピースサイン》
「よし、いい顔だ」パシャパシャ
「はい…」（少し慣れてきたかな…）
「脚もきれいだね」「グラビアモデルみたい」
「少し巻きでお願いします」
（まだ終わらないのかしら）

《時計を見た須藤》
「次はトップレス。ブラトップ外して」
「おお！」「胸出すのか？」「手で隠すんだろ？」
「そんなことできません！」
「またか……おい、手伝ってやれ」

©ILLUSION

《スタッフが背後から歩み寄りトップを奪い取る》

「きゃあああっ！」「おおっ」「すげー」「無理やりｗ」

「お、いい表情だな」カシャカシャ！

「と、撮らないでください！」



「手で胸を隠すポーズならいいだろ。それとも……」

「…わかりました」（せっかくここまで我慢したんだから……裸の画像がばら撒かれるのは絶対駄目だし）

「いくつかポーズをしたら、何か着せてやるから」

「はい」（言うとおりにして早く返してもらわなきゃ）

「珠ちゃんがんばれー」「その表情すごくいいよー」

©ILLUSION

ＰＡＲＴ １４

～ビーチで水着撮影②～

《まで隠すなら仕方なくポーズをとる様》

「よし、いいぞー」カシャカシャ

（大勢の人が見てる…もしもがすれたら…）

「もっと笑ってー　誘うような感じで」

「…はい…」（誘うって何を？）

《ウインクするスタッフを見て真似をする様》

「分かってきたな、いいぞー」カシャカシャー



「次のポーズでトップレスは最後にしてやるから、にっこり笑えよ……」

「はい」（やっと胸が隠せる……）

「かわいいよー」（ぱい見えそう）　「色っぽいねー」（足が震えてるのかわいいw）（もう少しでおっ

©ILLUSION

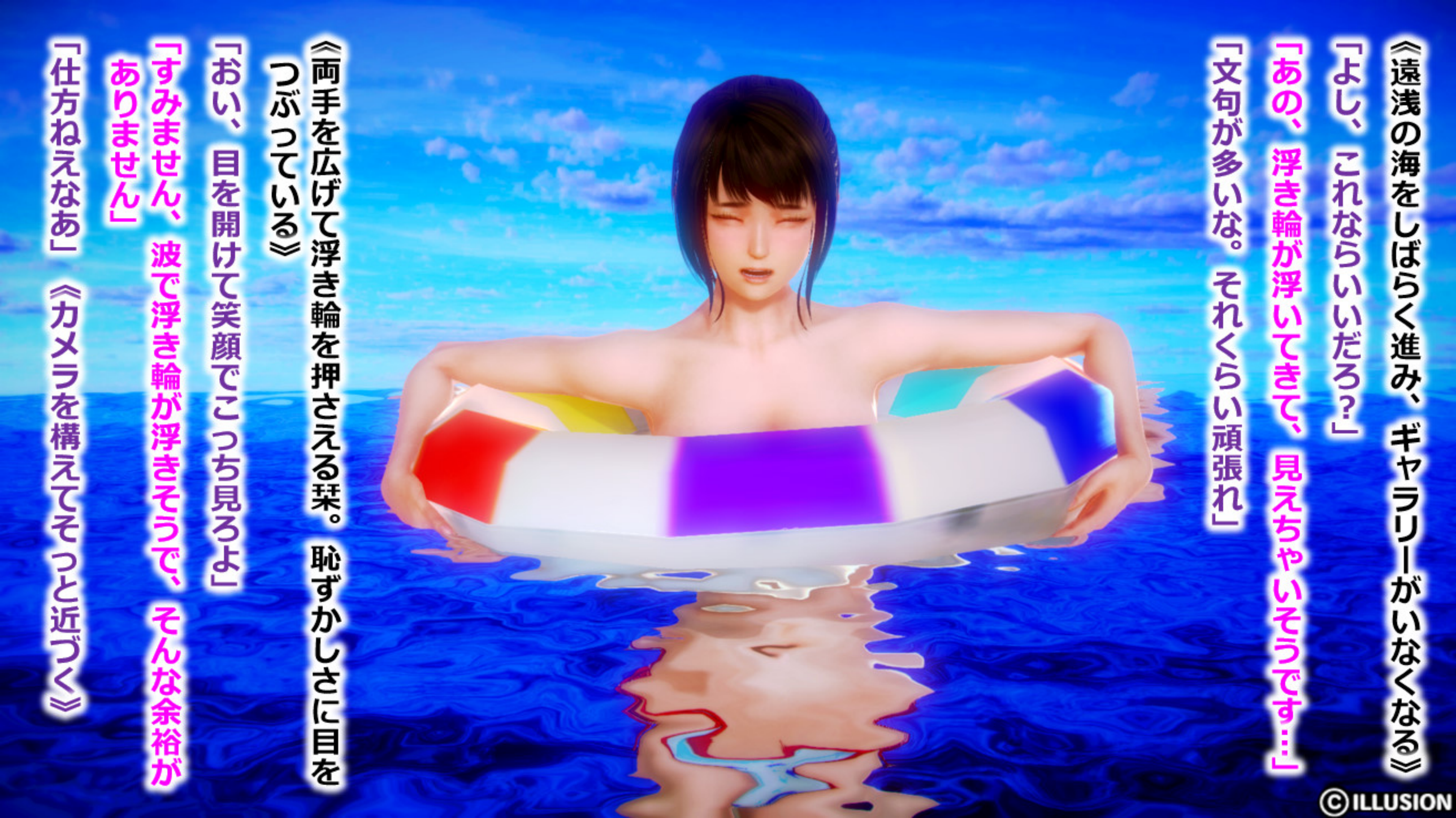

《手ブラを正面から撮られるポーズに戸惑う栞》
「おい、また表情硬くなったぞ」
「すみません、やっぱり恥ずかしくて…」
「恥ずかしそうな顔も可愛いよ」「柔らかそう！」
「…仕方ないな、しばらく待つから頑張れ」
「はい…」（恥ずかしいけど、にっこり笑わなきゃ）
《何十枚も撮影し、ようやく満足そうな表情の須藤》
「うん、まあまあいいのが撮れたな」
「次はアレですよね」
「ああ。急いでくれよ」
《女性スタッフが抱えてきたものを見て怪訝な表情の栞》
「あの、水着を返してくれるんですよね？」
「水着？　胸ならそれで隠せばいいだろ？」
「そ、そんな！」
©ILLUSION


《上から浮き輪を被せられ、自分で持たされた栞》
「ほら、これでオッパイ隠れてるだろ？」
「そんな！　少しずれたら見えちゃいます…」
「君さ、撮影中の指示には絶対従うんじゃなかったっけ？」（逆らったら全裸撮影って誓約したよな）
「はい。でもこれは……お願いです、みんな見てます」
《両腕を上げ続け、緊張にカタカタ震える栞》
「お、浮き輪ブラｗ」「大丈夫、見えてないよー」（もう少しで見えそう）（あの顔たまらんｗ）
「お願いです、トップの水着をください……他の指示には従いますから」（大勢の人がいやらしい目で見てるのに……）
©ILLUSION



《珠に近づき、しゃがんでカメラを構える須藤》
「きゃあ！　そんなところから撮らないでください」
「おお、なかなかいい絵だな」（カシャカシャ）
「おお、あそこからならオッパイ見えるかな」
「あの子、恥ずかしそうｗ」
「これ以上は無理です、お願いです」
「大丈夫、下チチしか見えてないぞ」
「下チチ見えてるんだｗ」
「い、いやあ！」
「仕方ないな、人がいないところに移動するか」
「え？　ちょっと待ってください！」《周囲を囲み、移動を始めるスタッフに従わざるを得ない珠》

©ILLUSION


《遠浅の海をしばらく進み、ギャラリーがいなくなる》
「よし、これならいいだろ？」
「あの、浮き輪が浮いてきて、見えちゃいそうです…」
「文句が多いな。それくらい頑張れ」
《両手を広げて浮き輪を押さえる栞。恥ずかしさに目をつぶっている》
「おい、目を開けて笑顔でこっち見ろよ」
「すみません、波で浮き輪が浮きそうで、そんな余裕がありません」
「仕方ねえなあ」《カメラを構えてそっと近づく》
©ILLUSION


《栞に近づいた須藤。斜め上から撮影を再開》
「お、結構いい絵だなw」カシャカシャ
(あれ、声が近い…)「きゃあ、そんなところから撮らないでください！」
「どうして？　いい恰好じゃん。ほら、笑って」
「ダメです！　そこからじゃあ見えちゃいます……」
「見えちゃうって、何がw」
「とにかく離れてくださいっ！　お願いですから…」
©ILLUSION


《少しずつ離れる須藤。撮影は続けている》
「おい、そろそろ笑顔見せろよ」カシャカシャ
「もう少し、離れてください…」
《栞が須藤に気を取られている間に近づくスタッフ》
（これを引っ張れば…）
「ここからならいいだろ」
「はい、そこなら…」
（もう見えないわよね）
（よし、両方とも外せた！
波に合わせて脱がすぞ…）
©ILLUSION


《水面下でボトムを外されたことに気づかない栞》
「あの、さっき上から撮った写真は……」
「大丈夫、おっぱい映ってたら使わないから。それより、笑顔でこっち見て！」カシャカシャ
「は、はい……」（本当は処分して欲しいんだけど…とにかく笑おう）
「お、可愛いぞ！　うん、もっと笑って」（海中ですっぽんぽんｗ　気づかないうちに撮りまくるぞ）
「はい……え？　あれ、嘘っ！」
©ILLUSION


《自分が全裸だと気づいた栞。慌てて片手をおろす》
「きゃああっ！　どうして！」
「あれ、ボトムも脱げちゃってるね、どうしたの？」
カシャカシャ
「と、撮らないでください！」
「こんなチャンス、逃すはずないだろｗ　透明度が高い海だから、アソコのもちらち見えてるぞｗ」
カシャカシャ
「い、いやあっ」《右手でも股間を庇おうと体を傾ける》
©ILLUSION


《手が離れた浮き輪の左側が持ち上がる》
「あ、いやあっ」
「おっと、今度は左のオッパイ見えてるよ！」カシャカシャ
「だめ、だめですっ！」
「うん、その表情いいねえw」
《左手を股間から離して上げ、両手で浮き輪を下ろし、浮き輪で下半身を、腕で乳房を隠そうとする栞》
「駄目、撮らないでくださいっ……きゃあっ！」
©ILLUSION


《波が来てバランスを崩し、浮き輪に腰を落とす栞》
「きゃ、きゃあああっ」
「おお、いいねえ！」カシャカシャ
「ああ、体が抜けない！」
「すっぽんぽんで大股開き！
いいポーズだねｗ」
「いやです、こんな格好！」
「ほら、こっち見て笑って」
「いやっ、撮っちゃ駄目っ！」
「ちょっとアングル変えるか」
「来ないで！」
©ILLUSION


《栞の真横に来て、斜め上から撮影する須藤》
「このアングル最高！」カシャカシャ
「待ってください。もう撮らないで！」
「光る海面と生白い美乳、傑作だな。公開していい？」
「いや、絶対駄目ですっ！」
「薄いピンクの乳首も綺麗に撮れてるのになあ」
「いやあっ！」
©ILLUSION


《横からの乳房を撮り終え、正面に移動する須藤》
「うん、このアングルもいいな！」カシャカシャ
「もう撮らないで…」（波で脚が閉じられない）
「恥じらう顔は撮ったから、次はオッパイ丸出しでにっこり笑顔頼むよ！」カシャカシャ
「何言ってんですか！　そんなの無理です」
「じゃあ水着は返さないよ？」
「そ、そんな…」
「君が契約を守るなら、裸の写真は公開しないから」
「…笑顔になれば、絶対公開しないんですね？」
「ああ。それに今日のバイト料も10万上乗せするよ」
©ILLUSION


《仕方なく笑みを浮かべる栞》
「…これでいいですか？」
「うーん、もっと楽しそうに！」
「……」《涙ぐみつつ笑顔》
《波が来て、栞の体が後ろに傾く》
「きゃあっ」「ほら、笑って！」
「アソコ丸出しでにっこりw
実は露出好き？」カシャカシャ
「違います！　撮らないでっ！」
「公開しないんだからいいだろ？」
「そんな…早く水着を返して」
©ILLUSION


《ぎりぎりまで接近する須藤》
「次は、カメラに向かって笑顔でご挨拶。こう言うんだ……」
「そ、そんな…挨拶したら、水着を返してもらえるんですね」
「ああ」
「…S学園2年1組の、涼川栞です…栞の乳首は、ピンクです…」
（恥ずかしくて死にそう）
「よしOK」（ライブ配信してるけどVIP限定だからいいよな？w）
「早く水着を返してください」
「その前にもう一回下を撮るぞ」
「そんなっ！　約束が違います！」
「一回とは言ってないぞ。次は、栞のアソコをご覧ください、って言うんだ」
©ILLUSION

PART 15

～ビーチで水着撮影③～


《屈辱のセリフを言わされた後、水着のトップだけを返され、慌てて着ける栞》
「あの、ボトムもお願いします」
「ボトムは君がさっき無くしたんだろ？」
「…他の水着はないんですか？」
「ビーチに戻ればあるかもな」
「そんな…今はどうしたらいいんですか？」
「どうするって…」（苛めたくなる表情だなｗ）
「どうせ俺には全部見られてるんだし、隠さなくても恥ずかしくないだろｗ」
「そんな、恥ずかしいです…」
「そろそろビーチに戻るぞ」
「ま、待ってください」
《片手で股間を隠しながら須藤に着いていく栞》
©ILLUSION


《ビーチに戻った須藤と栞。スタッフと野次馬が待ち構えている》
「その恰好で撮影再開だな……おい、表情硬いぞ」
「お、浮き輪が下になってる」「もしかして…ｗ」
《小声で》「お願いです、下もくださいい」
「だから、お前が海でなくしたんだろ」
《下半身を浮き輪だけで隠し、表情が強張る栞を撮影する須藤。好奇の視線でにやつくギャラリー》
「うーん、やっぱり笑顔が足りないなあ…」
「…すみません」（こんな格好で笑えないのに…）
「よし、じゃあちょっと動き付けようか。その場でくるっと回って後ろを見せて」
「え……はい」（大丈夫、よね）
©ILLUSION


《恐る恐る回転し後ろを見せる栞》
「よし、その恰好でしばらく止まってて」
「あの、見えてませんよね？」
「見えるって、何がだ？」
「…いえ、なんでもないです」
（半ケツ見えてるｗ）（やっぱり下はいてないよね？）
（清純派だと思ったのになあｗ）（可愛いお尻！）
《お尻の割れ目を露出した後ろ姿をしっかり撮影し、生配信した須藤、スタッフにこっそり目配せ》
「よし、今度はくるっと勢いをつけて回ってこっちを見るんだ」（そろそろ縮んでくる頃だよなｗ）
「え、はい……」（ひどい、胸を揺らせるつもりね）
「目線は下げずにまっすぐカメラを見るんだぞ」
「はい」（とにかく浮き輪がずれないようにしないと）
©ILLUSION


《須藤の合図でくるっと身体を回転させる栞。縮んだトップがずり上がり、乳房が皆の視界に晒される》
「これでどうですか？」（浮き輪ずれてないよね？）
「よし、そのままこっちを見ろ」（気づいてないなｗ）
（うわ、おっぱい丸出しｗ）（可哀そうｗ）
「はい……」（なんか、皆の顔がニヤニヤしてる…）
「ちょっと動画を撮るぞ。視線下げるなよ」
「はい……」（言うとおりにするから早く終わって）
「こう言うんだ…涼川栞、ビーチでおっぱい丸出し、気持ちいいですってな」
「え、何言ってるんで……きゃ、きゃあっ！」
©ILLUSION


《乳房を丸出しにしているとやっと気づき、悲鳴をあげる栞。左手を浮き輪から外し、胸を庇う》
「いやあっ！」
「あー、隠れちゃった」「ばっちり見せてもらったよw」「ピンクの乳首、可愛いね」「美乳最高！」
「普通、脱げるような水着着る？」「露出狂でしょ」
「おい、今度はトップスを壊したのか？」
「そんな、早く他の水着をください！」
「次の格好の前に、もう一回後ろを見せるんだ」
「後ろを見せたら、すぐに次の恰好なんですね？」
《胸を衆人環視に晒してしまい、パニック状態の栞。言われたとおりに背を向ける》
©ILLUSION


《左腕で胸を、右手で浮き輪の前を持ったままで後ろを向いた栞。後ろは浮き輪が落ちて尻が露出》
「……これでいいですか」
「よし、撮るぞ。そのまま動くなよ」カシャカシャ
（あはは、今度はケツ丸出し！）（最高のストリップだなw）（張りがあってプリプリ！）（VIP会員になって良かった！w）
《十数秒後、我に返り、尻が露出していると悟った栞》
「きゃ、きゃあっ」
「やっと気づいた」「プリケツ最高！」「ばっちり見たよ」「おっぱいとお尻大公開！w」
「いちいちうるさいな、君は」《スタッフに目配せ》
《素早く栞の背後に近付いたスタッフ、紐を解いてトップスを取り去る》
「え、何するんですか？　きゃあぁっ！」
©ILLUSION


《右手から浮き輪がずり落ち、慌てて両手で胸と股間を庇う栞。スタッフが浮き輪を拾って栞の前に当てる》
「水着を2つもダメにしやがって。次の衣装はそれだ」
「え、そんな…これじゃあ、後ろが隠せません」
「みんなもう見てるから大丈夫だよ～」「ぷりけつ可愛いw」「アソコは見えてないからいいじゃん」
「お客さんもこう言ってるからいいだろw」
「…」（いいわけないでしょ）
「ほら、笑って。次の水着に行けないぞ」
「そんな…」（水着があるなら早く着させて）
「それじゃあ挨拶。栞の水着は浮き輪だけですって、カメラ目線でにっこりとな」（生配信の客向けになw）
「…はい」（もう何でもいいから、早く水着を）
©ILLUSION


《浮き輪を前に抱えて必死に身体を隠す栞。命令に逆らえずカメラに向かって笑みを浮かべる》
「栞の水着は、浮き輪だけです…」
「周りのお客さんにも目線を送るんだ、にっこりと」
「はい…」（エッチな目で見てる男の人たちに向けて笑うなんて…）
「エロ可愛い！」「最高！」「ファンになったよ」
「よし。今度は、後ろのお客さんに顔だけ振り向いて」
「え、後ろ？　きゃ、きゃあっ！」
《背後にも大勢の男がいることを知り悲鳴をあげる栞。しかし、全裸の後ろ姿を隠すことはできない》
「いや、後ろから見ちゃだめですっ」
「振り向き顔いいねえ」「プリケツ堪能したよw」
「こっちにも視線向けたまま挨拶してー」
「笑顔で挨拶しろ。そしたら水着を着させてやるから」
「…栞の水着は、浮き輪だけです」（恥ずかし過ぎる）
「いいねえ！」「お尻軽く振ってよ」「振ってやれ」
「そんな…」《ためらいながらお尻をくねらせる栞》
©ILLUSION


《前の男たちからもリクエストされ、全裸で浮き輪を前に抱えた姿で一回転させられた栞。ビーチを盛り上げた後、ようやく水着を渡される》
「この水着、ちょっと恥ずかしいです…」
「ん？　ちょっとハイレグなだけだろ」
「頑張れ！」「みんな、栞ちゃんのお尻ばっちり見てるんだから大丈夫ｗ」「おっぱいポロリもねｗ」
「……」（もう、恥ずかしくて消えたい）
「おっぱいもケツも皆さんに披露してるんだから、ハイレグくらいで恥ずかしがるなよ」
「おっぱいもお尻も可愛かったよ」「でも今日のことは絶対に秘密にするから」「着衣の撮影しないとまずいんじゃない？」
「お客様もこう言ってるんだし。この水着で今日の撮影は最後だから頑張れ」
「…はい…」（あと、少しだけ頑張ろう）
©ILLUSION


「最後の水着の撮影、ちょっと衣装を工夫するぞ。弾けるような笑顔も作れないしな」
「…すみません」（ほとんど裸でそんなの無理よ…）
「はい。動かないで」《白い布を持って近づき、栞に目隠しをするスタッフ》
「え、なんでこんな…」
「これで恥ずかしくないだろ？　両膝を付いてみろ！」
「はい…」（周りが見えないと不安…）
「もっと足を開いて、笑顔でそのまま」カシャカシャ
（そろそろ透けてくる頃だなｗ）
《徐々に透ける水着にニヤニヤするギャラリー》
（透ける水着！）（乳首が見えてきた！）（アソコの毛も透けてる？）（どこまで透けるのかなｗ）
「いいぞ、その笑顔！」
「はい」（周りが急に静かになった気がする…）
（うわ、どんどん透けてくる）（アソコ丸見えだなｗ）
「よし、次のポーズ行くぞ」（日光で透ける水着、よくできてるな。最後はほぼ透明になるはずｗ）
©ILLUSION


《須藤の指示でスタッフが栞を後手縛りにする》
「いやです、縛るんなんて！」
「お前の表情が足りないから工夫してるんだろ？」
「でも、こんな写真……」（掲載できないでしょ）
「後ろ手縛りでの撮影が最後だから頑張れ」
「はい…」（これが最後なのね。それなら…）
「お客様にもっと笑顔を見せるんだ」
「はい」（お客様って変だと思うけど）
（もうほぼ全裸ｗ）（栞ちゃん可哀想ｗ）（自分の恰好知ったらどんな顔するかな？）（楽しみだなｗ）
「お客様に今の気持ちを言うんだ。こんな風に…」
「…はい。涼川栞、綺麗なビーチに来て開放的になっちゃいました。私の身体、よくご覧くださいね」
（変なセリフ…言う通りにして早く終わろう）
「よく見てるよー」「スタイルいいね！」「大ファンになったよー」
「よし、少しポーズ変えるぞ」「はい」
©ILLUSION


「膝を曲げたまま、今度は爪先で立ってみろ」
「…こうですか？」（変な格好…）
「そのまま、膝をばっと大きく開くんだ」
「そんな！　恥ずかしいです」
「いい加減にしろ。おい、やってやれ」「はい」
「いやあ！」《スタッフにがばっと足を開かれる》
「ほら、にっこり笑顔！」
「はい」（お願い、早く終わって！）
（おお、こりゃすごい！）（ミスS学園のするポーズかよｗ）（ローアングルで撮られてるしｗ）
【男の声】「おい、何勝手に撮影してるんだ！」
「撮影許可はオーナーから頂いていますよ」
「ヌードの許可はしていないはずだ！」
（え、ヌードってどういうこと？）
©ILLUSION


《目隠し後手縛りの栞を挟んで男たちの会話が続く》
「ヌード撮影の許可はありませんが、水着は着てますよ？　この子の希望なんだからいいでしょ？」
（私、こんな格好希望してないのに）
「ふざけるな！　こんなスケスケ水着、裸と同じだろ！　それに目隠しで縛られて、こんな格好を女の子が希望する訳ないだろ！」
（え、スケスケって？　まさか！）
「いや、本人の希望ですよ、なあ」《目隠しを外す》
「え？……きゃ、きゃあああっ」
「ほう！　可愛いな…君、本当に希望したの？」
《栞の耳元に囁く》「絶対に俺たちのせいにするなよ、その場合は今までの画像ばらまくぞ」
「え、あの…はい、私の希望です…」（嘘です！）
「ふーん。とにかく、全員警備室まで来てもらおうか。公然わいせつの容疑で警察に相談させてもらうぞ」
「おい、逃げるぞ！」「はい！」
「ちょ、ちょっと待ってください！」「待てえっ！」
©ILLUSION

使用したプログラム・素材等

■本作品は、ILLUSIONの「ハニーセレクト ～コンプリートパック～」を使用して作成しています。（http://www.illusion.jp/preview/honey_party/index.php）

■また、イリュージョン公式ページに投稿のキャラデータやシーンデータを活用しています。
その他、個人HPに掲載の服なども使用しています。各作者の方に感謝いたします。

■本作品のコンテンツの著作権は ILLUSIONに帰属し、販売等は認められていません。
転載・販売等は行わないようお願いします。